

## 北九州地域循環圏リサイクルセンター おかげさまで 2 年経過

2 年間で見学者 1,189 名

・リサイクル堆肥 71.5 トン出荷。



リサイクルセンター

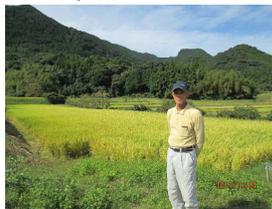


リサイクル堆肥

平成 27 年 7 月 1 6 日に北九州エコタウン弊社敷地内に地域循環圏リサイクルセンターが稼働し、おかげさまで 2 年が経ち、出荷した堆肥は、約 71.5 トンになりました。枯草菌を主役とした微生物で 1 次発酵させ、脱塩分・脱油脂をした発酵物をさらに 2 次・3 次発酵させたリサイクル堆肥です。見学者も合計 1,189 名(国内 758 名、海外 431 名)の方にお越しいただきました。

## リサイクル堆肥をご使用いただいている 農家の皆さまからのメッセージ

山口県下関市内日三町の弘川農園です。堆肥の成分分析からも安心・安全な楽しい(株)の堆肥をたくさん使って、これからはおいしいお米を出荷します。



弘川農園



堆肥を蒔いている様子

福岡県遠賀郡水巻町の久富文男です。グリーンコープ水巻店でアルバイトをしています。水巻店には、楽しい(株)の生ゴミ処理機が設置され、私たちは野菜や魚、肉の切れ端を日々投入しています。楽しい(株)の堆肥を使うようになり、長年の夢だった循環の輪が出来たと喜んでいました。私は、わずかな量ですがグリーンコープ水巻店に出荷しています。最近、ピーマンを出荷させて頂きました。これからは、かぼちゃ、おくら、キュウリを作る予定です。



久富さん

北九州市若松区の小林徳子です。北九州市若松区で生まれてからずっと農家です。8 月に植え付けて、深ねぎ 九条ねぎ、セロリを 12 月頃に収穫予定で

す。先日、友人が「楽しい(株)の堆肥を使って「かぼちゃ」が良く育った。」と言っていました。こできが良い(こじんまり出来たら良いのこと。枝葉に栄養がいくのではなく、実に栄養がいくこと 若松の農家が使う方言)。出来た農作物は、スーパーカーニバル(北九州市八幡西区)で販売して頂いてます。

波多野才子です。定年後 10 年以上、小林徳子さんと仲良く農業にいそしんでおります。スーパーカーニバルのスタッフ方々や弟さんに手伝ってもらいながら、楽しい(株)の堆肥を畑に入れ、今は深ねぎを作っているところです。バレーボールで鍛えた体で、今後は、にら、みずな、ほうれん草作りにチャレンジしてみようと思っています。



小林さん(左)波多野さん(右)

北九州市若松区の久保保(くぼたもつ)です。楽しい(株)の堆肥は、元肥として畑に牛糞を混ぜるのと同じ要領で使っています。若松の仲間 5 人で、畑でたっぷり汗を流し、農業に勤しんでいます。軽トラでリサイクルセンターに乗り付け、フォークリフトで積み込んでもらい、そのまま畑へ運び入れています。使用した堆肥は、合計で 4 トンを超えました。

竹下隆志です。北九州市の小倉から若松まで通って久保さんと一緒に農業をしています。健康の為、ストレス解消のため、自給自足が目的で畑仕事に従事しています。珍しい品種の農作物を作りたいと思っています。出来た農作物は、若松の「海と大地」に出荷しています。



久保さん



竹下さん

北九州市若松区の梶野晏正(はるまさ)です。長年にわたり、有機農業(無農薬栽培)に携わってきました。楽しい(株)の堆肥は、稲に使用しています。感想としてまず「良い」。何が良いか、分蘗(ぶんげつ、植物の根元付近から新芽が伸びて株分かれる事)力、発根力(根が伸びようとする力)が強いという所です。9 月からは、キャベツ栽培に使う予定です。



梶野さん

<裏面は、JICA 事業採択についてです>

ハチドリ通心(信)は楽しい株式会社のホームページでご覧頂けます。  
URL : [www.fun-c.jp/](http://www.fun-c.jp/) (上村寛が担当しました。)

# JICA 事業に採択 マレーシアで生ごみの堆肥化技術を活用



独立行政法人国際協力機構（JICA；ジャイカ）より、「2017 年度 第1回 中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」において、弊社が提案した「食品系廃棄物の堆肥化およびリサイクルループの構築に係る案件化調査」（マレーシア）が採択されました。

調査対象地域のパハン州カムロンハイランド市は、標高 1,500 メートルを超える高原地帯で観光地であるとともに冷涼な気候を活かした農作物（紅茶、キャベツ、白菜、いちごなど）の栽培が盛んで、マレーシア全域やシンガポールなどに出荷している。一方、水分が多い野菜残渣は、市内の焼却炉で処理することが出来ず、およそ 200 km離れたパハン州内の廃棄物処分場まで運搬しており、深刻な環境問題となっている。

本調査では、弊社が北九州エコタウンで培った技術を活用し、生ごみ堆肥化装置で食品系廃棄物の 1 次発酵処理を行った後、1 次発酵物を取り出し 2 次・3 次発酵処理を行い良質な堆肥を生成します。その堆肥を利用した有機野菜の生産・販売を行うことで食品リサイクルループの構築を目指し、食品系廃棄物の減量やリサイクルにつなげます。

なお、本調査は、JICA と弊社において委託事業契約締結後に調査を実施します。

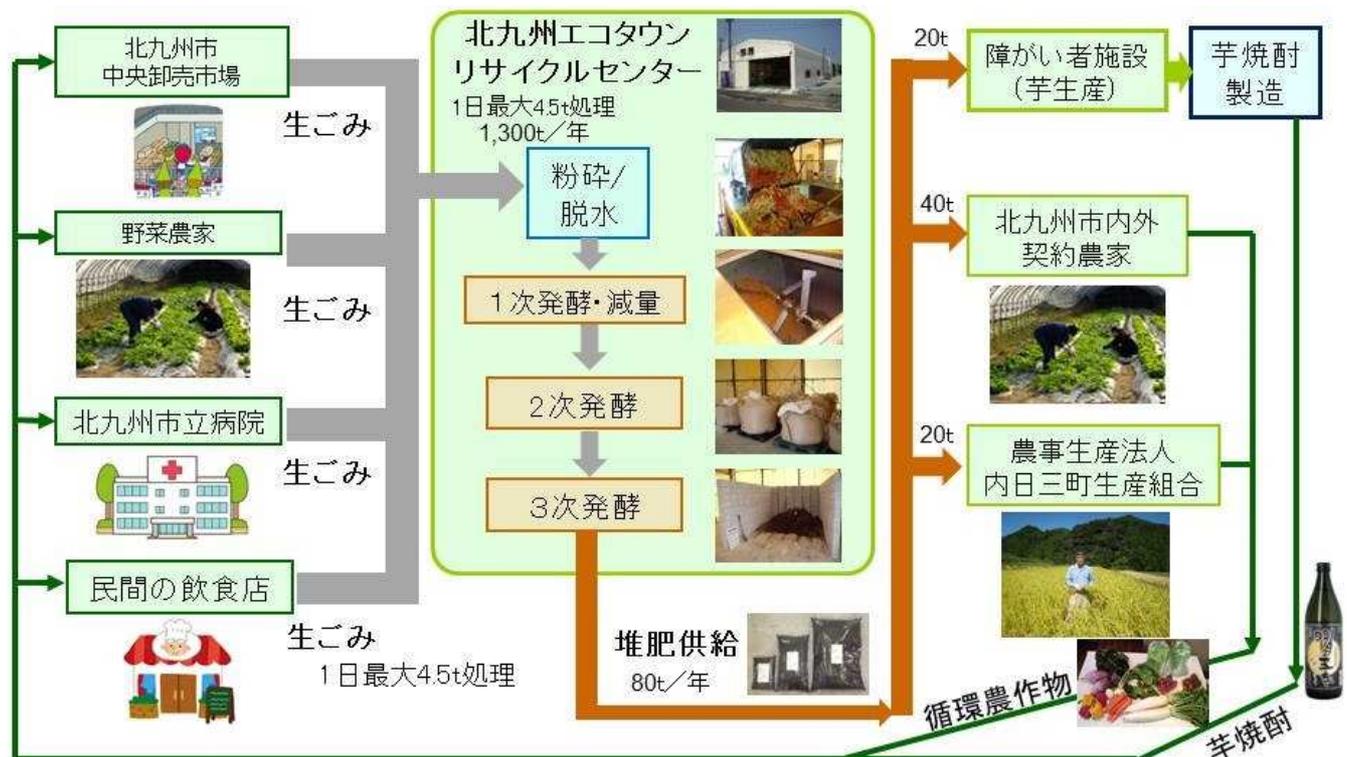


北九州エコタウンリサイクルセンターの様子



北九州エコタウンリサイクルセンターの様子

参考：「2017 年度 第1回 中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」採択結果について(JICA より)  
[https://www.jica.go.jp/announce/notice/investigation/ku57pq00001yndld-att/investigation\\_170308\\_result.pdf](https://www.jica.go.jp/announce/notice/investigation/ku57pq00001yndld-att/investigation_170308_result.pdf)



北九州エコタウン食品廃棄物地域循環圏リサイクルセンターのループ図